おばあちゃんの笑顔

菱刈中学校　一年　坂元　凛生

「おかえり、お腹すいてないね？ご飯できてるよ。」
鹿児島のおばあちゃんの家に帰ってくると、いつも最初に言ってくれる言葉です。
おばあちゃんは料理好きで、テーブルの上にたくさんのおかずを並べて待っていてくれます。よく見ると、ぼくの大好物も必ず準備してくれています。そんなおばあちゃんは、今、病気で口からご飯を食べることができません。だから、お腹につけたチューブからご飯を食べています。いつも決まったご飯を食べているので、ぼくは、「飽きないのかな。」と気になっています。時々、ぼくたちが食べるご飯を見て、
「おいしそうだねえ。一口ちょうだい。」と言ってきます。でも、もしそのご飯をおばあちゃんが食べれば、熱が出て、体調が悪くなってしまうので、食べさせてあげることができません。ぼくは、「いつかおばあちゃんがみんなと同じご飯を食べられるようになればいいのに。」と思っています。
ぼくのお母さんは、仕事が休みの日には、おばあちゃんの家に介護しに行きます。お母さんは、おばあちゃんの食事の準備や薬の管理、おむつや着替えの手伝い、病院のつきそいをしています。そんなお母さんの様子をぼくは、いつも見ているだけです。お母さんから手伝いをたのまれても、失敗するのがこわくてにげていました。だけど頑張っているお母さんを見ていると、「ぼくもおばあちゃんのために何かしたい。」と思うようになりました。そこでぼくは、夏休みに募集していた社会福祉協議会のサマーボランティアに参加してみることにしました。
ボランティアは、伊佐市の「まごし館」でデイサービスを利用する二十人のお年寄りの手伝いをするものでした。初めての経験だったので、当日はとてもきん張しました。しかし、担当の方が優しく説明してくれたことやお年寄りの方々が、たくさん話しかけてくれたことで、だんだんきん張がほぐれていきました。午前中は、ぬり絵やことわざゲーム、計算などの脳トレをしました。ぼくは計算はうまくできましたが、ことわざは知らないことも多く、お年寄りの方々に教えてもらうことが多かったです。お昼ご飯の前に、ご飯がのどにつまらないようにと、お口の筋肉を使った体操をして、ご飯を食べる筋肉もきたえることを知りました。午後からは、体を動かす時間として、パターゴルフをしました。パターゴルフは、お年寄りの方々が本当に上手で、びっくりしました。そして帰宅時間になり、それぞれの車で帰るその時、あるお年寄りの方が、
「今日はありがとう。またきてね。」
とぼくの手をぎゅっとにぎってくれました。ぼくはそのとき、心がほわっと温かくなりました。「ぼくも少しは役に立ったのかな。」そう思えました。

今年のお盆休み、ぼくたちはおばあちゃんの家で過ごしました。ぼくは、お母さんと一緒におばあちゃんの着替えの手伝いをしました。おばあちゃんの腕を服に通すとき、ひっかかったりして難かしかったです。ボランティアでやった「お口の体操」は、おばあちゃんと一緒に上手にできました。「おばあちゃん、いっぱい練習して、いっしょにご飯食べようね。」そう言うとおばあちゃんは、にっこり笑ってくれました。

今年の夏、ぼくは、ボランティア活動を経験して、人との触れ合いの大切さを学びました。いつも料理を作って待っていてくれたおばあちゃんや今、おばあちゃんを一生懸命に支えているお母さんのように、ぼくも人を思いやり、相手の気持ちを大切にし、誰かを支えられる人になりたいと思いました。そして、そんなことを思えた今年の夏は、ぼくにとって、いつもと少し違う夏になった気がします。